

一般社団法人大学英語教育学会 平成 30 (2018) 年度事業計画

本学会は一般社団法人としての社会的責任と、研究・教育に対する良心的熱意を持って平成 30 (2018) 年度も活動を行う。グローバル社会に対応するべく専門家の観点から英語教育に関して情報や提言を発信していきたい。

1号事業：大学英語教育及び言語教育関連の研究理論の発表及びその実践結果の報告のための大会、セミナー等の開催

(1) 大学英語教育学会第 57 回 (2018 年度) 国際大会の開催

目的：大会ごとにテーマを決定し、大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究の発表を行い、会員である全国の大学教員等に調査・研究内容をフィードバックすることが大会の目的である。今回の大会では、「グローバル化に向けた初等英語教育から高等英語教育までの学習成果の保証 (Assuring Quality Learning Outcomes in Primary to Tertiary English Education for Globalization)」という大会テーマを設定し、大学英語教育とその関連分野の理論・実践に関する調査・研究の発表を行い、会員である全国の大学教員等に調査・研究内容をフィードバックする。当該調査・研究発表内容は会員が大学等の授業で実践することで、わが国の英語教育の向上と改善に資することを目的とする。

対象：本学会の会員および英語教育関係者、国内外の言語教育関係者など。

規模：約 1,000 名。

広報：会員に対しては、学会ウェブサイトと『JACET 通信』を通じて広く知らしめる。その他の英語教育関係者に対しては、学会ウェブサイトおよび一般商業雑誌の学会情報（『英語教育』など）を通じて行う。国内外の関係諸学会やマスコミ各社に「国際大会案内」を送付する。

成果：会員には 12 月に刊行される『JACET 通信』の大会特集ページで全体報告および基調講演、招待講演、全体シンポジウムの報告が行われ、これは学会ウェブサイトに掲載される。また、マスコミ各社の取材が新聞に掲載される予定である。この大会で披露された研究成果や知見が各研究者の研究活動に大きな道標となると同時に、広く普及させることで、会員をはじめ英語教育関係者がより専門性の高い教育研究を行う成果が期待される。

(2) セミナーの開催

第 1 回 JACET サマー・英語教育ジョイントセミナーの開催

今までサマーセミナーと英語教育セミナーを別々に開催してきたが、2018 年度はジョイントセミナーとして開催する。

目的：テーマは“Classroom research revisited: Who are the ‘practitioners’? (「授業学」を問い直す一だれが‘practitioner’か?)”である。国内外の講師による講演に加え、参加者によるポスターセッションや賛助会員による教材展示も行うことで、互いに研鑽し合う場を提供することを目的とする。

対象：当学会の会員ほか今回のテーマや大学英語教育に関心のある方。

規模：約 100 名。

広報：会員に対してメールリスト、『JACET 通信』を通じて告知する。また、案内を学会ウェブサイトに掲載し、一般商業雑誌の『英語教育』、『英語青年（ウェブサイト版）』などに掲載を依頼し、英語教育関係団体に案内を送付することで、広く告知する。

成果：本セミナーをきっかけにその後の研究活動に影響を与え成果をあげることや、特定テーマに関心をもつ参加者間の情報交換が活発なことが期待できる。本セミナーの実施状況は『JACET 通信』で報告する。

(3) 支部大会の開催

7つの支部（北海道支部、東北支部、関東支部、中部支部、関西支部、中国・四国支部、九州・沖縄支部）では、大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究の発表を行うことを目的に、年に一回は支部大会が開催される。

(4) 支部研究会・支部講演会等の開催

それぞれの支部で、活発に研究会や講演会を開催する予定である。北海道支部研究会（北海道支部）、東北支部例会（東北支部）、関東支部月例研究会・講演会（関東支部）、支部定例研究会（中部支部）、関西支部講演会（関西支部）、支部イベント（中国・四国支部）、九州・沖縄支部学術講演会（九州・沖縄支部）などがある。

2号事業：紀要、学会誌等の出版物の刊行

(1) 『紀要』の刊行

JACET『紀要』の刊行を行う。

目的：会員の学術研究を奨励し、論文発表の機会を与えるために、英語教育の分野および広く応用言語学における質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文、リサーチ・ノート、およびブックレビューの各分野で原稿を募集する。また、学会公認の論文誌として刊行することにより、海外の学会や英語（言語）教育関係者に対して日本の大学英語教育に関する研究の最前線について発信する。

対象：会員・その他の英語教育関係者（国立国会図書館・大学基準協会・国立情報研究所電子図書館サービス・コンピュータ利用協議会・全国語学教育協会・海外提携学会等）。

規模：3,000冊。

広報：投稿規程は学会ウェブサイトと紀要62号巻末に掲載する。ウェブサイトにはテンプレートも掲載して投稿を促進する。

成果：掲載論文の目録をウェブサイトで発表する。全文は発行後1年を経過した時点で、大学英語教育学会ウェブサイト上で公開する。全会員および内外の advisory board の有識者には1部ずつ送付する。JACET 紀要への掲載は執筆者にとり大きな業績となるのみならず、研究者同士の情報交換の場として更に活発な研究の促進が期待される。海外に対し、日本の英語教育に関する最新事情を発信する場ともなる。

(2) 『Selected Papers』の刊行および準備

目的：国際大会で口頭発表（ポスターも含む）した発表者の学術研究を奨励し、論文発表の機会を与える。英語教育の分野および応用言語学における質的研究や量的研究など様々な観点の論文を対象とし、広く知識を提供する。海外の学会や英語（言語）教育関係者に対し

て、日本の大学英語教育に関する教育の最前線について発信する。本年度は『Selected Papers』5号（第56回（2017年度）国際大会での口頭発表者が対象）を平成30（2018）年8月に発行する。

対象：会員・世界中の英語教育関係者（国立国会図書館・大学基準協会・コンピュータ利用協議会・全国語学教育協会・海外提携学会等を含む）

規模：電子ジャーナル（オンライン）

成果：掲載論文そのものを本学会のウェブサイトで発表する。本誌への掲載は、国際大会発表者にとってより大きな業績となるだけでなく、研究者同士の情報交換や議論の場として更なる研究の活性化を促進することにつながる。また、ウェブサイトで公開することにより、海外に対し日本の英語教育に関する最新事情を発信することができる。

(3) 『JACET 通信』の刊行

目的：大学英語教育学会（JACET）の最近の動向を知らせると共に、学会員に有益な情報等を紹介する。

対象：学会員・その他の英語教育関係機関（国立国会図書館・大学基準協会・国立情報研究所電子図書館サービス・コンピュータ利用協議会・全国語学教育協会他）。学会のウェブサイトにも掲載するので、国の内外を問わず多くの人々の閲覧が可能である。

規模：全学会員、及び関係諸機関に配布。学会ウェブサイトにて掲載。

成果：学会の最近の動向を紹介することにより、大学英語教員の意識を向上させることができる。また、本号には国際大会報告が盛り込まれるため、著名な研究者の講演や、国外の提携学会からの招待講演等から英語教育に関する最新の知見が得られ、学会員の教育・研究両面に資することができる。

(4) 支部紀要の刊行

7つの支部－北海道支部、東北支部、関東支部、中部支部、関西支部、中国・四国支部、九州・沖縄支部では、それぞれ支部紀要を刊行する。支部会員の学術研究を奨励し、論文発表の機会を提供する。

(5) 支部ニューズレターの刊行

7つの支部－北海道支部、東北支部、関東支部、中部支部、関西支部、中国・四国支部、九州・沖縄支部－では、支部ニューズレターを刊行する。支部活動の動向や英語教育に関する情報提供により、支部会員間の情報交換の促進を行う。

3号事業：大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動に対する表彰

(1) 大学英語教育学会賞の表彰

目的：英語教育における研究または実践上の顕著な業績を通してわが国における大学英語教育の改善と進歩・発展に寄与した本学会員である個人または団体に対して表彰を行う。

対象：学術出版、論文、研究開発、実践、新人発表、新人論文の6部門

規模：本賞は学会内に設置する選考委員会の選考を経て理事会が決定し国際大会で授賞する。受賞者に対しては賞状とともに記念品を贈呈する。

成果：本賞は、受賞者に対しては研究者としての功績を称えることにより研究活動に一層精進することを奨励することになり、一般会員に対しても本賞を目標として各自の研究を進展させることを導く要因となることが期待される。

4号事業：大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関との協力

(1) 関係学術団体への派遣

本学会から海外学術団体および国内の提携学会へ優れた英語教育関係者の派遣を行う。

目的：国内外の提携学会の大会へ講演者等として派遣され、本学会代表として参加することにより、関係諸学会との人的及び学術交流の促進を図る。

対象：学会社員又は理事

規模：海外9団体、RELC (Regional Language Centre), KATE (The Korea Association of Teachers of English), ALAK (The Applied Linguistics Association of Korea), ETA-ROC (English Teachers Association of the Republic of China), MELTA (Malaysian English Language Teaching Association), PKETA (Pan-Korea English Teachers Association), AILA (Association Internationale de Linguistique Appliquée), Thai TESOL (Thailand TESOL), CELEA (China English Language Education Association)

国内1団体、JALT (全国語学教育学会) が対象。

成果：学会として国内外の他学会との学術交流を行い、情報交換を活発にして研究活動を促進する。さらにその成果は学会ウェブサイトや『JACET 通信』に掲載され、本学会が国内外に認知されていることを、会員および国内外の英語教育関係者に知らせることになる。

5号事業：大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践方法に関する調査・研究

(1) 専門分野別の研究会活動（毎年継続事業）

大学英語教育学会の各支部にはそれぞれの地域の研究や教育の活性化と協力を意図して、専門英語 (ESP : English for Specific Purposes) 研究会、英語語彙研究会、東アジア英語教育研究会などの研究会がある (46 研究会)。各研究会はそれぞれの分野での調査研究を基盤として、会員の資質向上、書籍出版、教材開発、紀要等での論文発表などの活動を行っている。委員会はそれらの各研究会の活動の支援をする。さらに、その他の調査研究事業の支援を必要に応じて行う。

目的：研究会と本学会の調査研究事業などに関する企画・運営

対象：各研究会など

規模：46 研究会 (北海道 3, 東北 1, 関東 20, 中部 7, 関西 10, 中国四国 2, 九州沖縄 3)

成果：上記の活動により、大学英語教育の発展に寄与し、会員相互の専門知識と技能の向上、会員の知見による学術の発展及び社会への還元などの成果が期待される。また、各研究会の研究成果物を可能な限り公開できるようにする。

(2) JAAL in JACET 学術交流集会の開催

大学英語教育学会 (JACET) JAAL in JACET 学術交流集会 (東京、2018)

目的：社会のニーズの変化、教育研究環境の多様化を受け、学際的・国際的研究の必要性が高まっている。本集会は、本集会は JACET が AILA において JAAL in JACET として認められており、その趣旨である応用言語学研究の促進と発展の一助となることを前提としてい

る。英語教育だけではなく応用言語学に携わる者の教育研究力を高め、会員や研究会、学会を超えた研究の促進を図り、JACETの一般社団法人としての役割を果たしていくものである。

対象：本学会の会員・賛助会員・国内外の応用言語学研究者

規模：約 150 人

成果：発表者には『Proceedings』（オンラインを予定）に投稿してその成果を公開する機会を与える。翌年の 12 月に刊行される『JACET 通信』で本集会の報告が行われ、『JACET 通信』は学会ホームページにも掲載される。また、マスコミ各社の取材が新聞等に掲載される予定である。この研究集会で披露された研究成果や知見が各研究者の研究活動に大きな道標となると同時に、広く普及させることで、会員をはじめ応用言語学研究者がより専門性の高い教育研究を行う成果が期待される。

その他法人事業：

(1) 会議等

定例及び必要な場合には臨時の理事会、社員総会、運営会議、運営委員会、特別委員会等を開催し、必要な事業について検討を行う。各支部では、支部総会、支部委員会等を開催し、支部の事業について検討を行う。

(2) 『会員名簿』の刊行

会員情報を提供し、定款等規則を開示する。会員同士が情報交換のリソースとして活用することにより、学会活動の活性化が期待される。

(3) 社員選挙の実施

2018 年度は 2019～2020 年度の社員を選出する社員選挙を実施する。

(4) JACET アーカイブ作成

平成 30 年度国際大会で「JACET アーカイブ」をお披露目する。

目的：大学英語教育学会（JACET）の歴史に関する各種資料を継続的に収集・整理・保存する。

収集・整理した資料を閲覧、公開等の利用に供する。

対象：JACET 会員。デジタル・アーカイブについては JACET ウェブサイトに掲載するので、非会員で英語教育に関心のある人や海外からも閲覧することが可能である。

規模：JACET 関係者

成果：学会の歴史の継承に資する事業を通して、学会の存在意義の確認・周知や、学会の魅力の向上・発信等に役立つ。収集・整理された資料は、学会の今後の諸活動の企画・実施・推進に資するとともに、会員を中心とする英語教育関係者に対して、教育研究活動に役立つ基礎資料と成る。会員は、学会の歴史・伝統に関する理解を深めることで学会への帰属意識が深まり、海外の研究者に対しても、JACET の歴史やこれまでの活動実績等に関する情報を提供できるようになる。

以上